

2022 年度 事業報告

[1] 福祉会の実施事業について

よさみ野福祉会として、当該年度に行った事業の概要は以下の通りとなる。

- 1 障害福祉サービス 生活介護
- 2 障害福祉サービス 共同生活援助
- 3 障害福祉サービス 特定計画相談事業
- 4 障害福祉サービス 短期入所事業
- 5 実習・ボランティア等受入

[2] 生活介護事業について

1 実施場所(2か所)

よさみ野障害者作業所 (定員30)
第2よさみ野障害者作業所 (定員15)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	45 名	昨年(45)
(b) 利用者数	42 名	(43)

※ 利用者については、年度当初41名であり、年度途中での退所者が1名あり、年度末での利用者数は42名となる。

(c) 開所日数	254 日	昨年(254)
(d) 延利用者数	9681 人	(9728)
(e) 平均出席率	90.75 %	(89.07)
(f) 平均障害程度区分	5.24	(5.22)

※ 前期にくらべて比較的コロナ禍を要因とする利用率の低下はなかったものの、延べ利用者数の減少がみられた。しかし、平均出席率は上昇していることから、実利用者数が1名少なかったことが要因として考えられると同時にコロナによる運営への影響が少ないものとなっていることが推測される。

[3] 共同生活援助事業について

1 実施場所(2か所)

ぼむ (定員5)
こりす (定員4)
らんぶ (定員4)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	13 名	昨年(13)
(b) 利用者数	13 名	(13)
(c) 開所日数	365 日	(365)
(d) 延利用者数	4113 人	(4109)
	(内 ぼむ 1413 人)	(1514)
	(内 こりす 1451 人)	(1446)
	(内 らんぶ 1249 人)	(1149)

(e)	平均利用率	86.7 %	(86.6)
	(内 ぼむ)	77.42 %	(82.96)
	(内 こりす)	99.38 %	(99.04)
	(内 らんぶ)	85.55 %	(78.7)
(f)	平均障害程度区分	4.92	(4.97)
	(内 ぼむ)	4.99)	(5.18)
	(内 こりす)	4.75)	(4.75)
	(内 らんぶ)	5.04)	(4.99)

※共同生活援助での利用状況では、コロナ等に左右されたわけではなく、通常の利用実態を反映したものとなっています。

ここでは、それぞれのホームにおける実態をよく反映しており、土日も含めて帰省することなくホームで過ごすメンバーの多い「こりす」の利用率は依然として高く、ほぼ毎週全員が週末に帰省する「ぼむ」での利用率が低いものになっています。

[4] 特定計画相談事業について

1 実施場所 よさみ野障害者作業所

2 利用実績

(a)	利用者数(名簿)	41名	昨年(39)
(b)	開所日数	254日	(255)
(c)	延利用者数	227名	(225)
	※利用支援あるいは継続支援の利用のあった回数			
	(内 利用支援)	35)	(44)
	(内 継続支援)	197)	(198)
(d)	加算算定数	436回	(428)

※年度内での利用者名簿(総数)では、当初38名から2名追加後1名の契約解除、さらに1名の追加、2名の契約解除があり、年度内の最大人数は41名、年度末の名簿人数は39名となった。利用および継続支援を中心としながら、関係事業所や医療機関との連携を強め、各種加算の算定をも積極的に行っている。

[5] 行事等の開催あるいは参加について

1 行事への参加

12月10日 合同クリスマス会 一昨年(合同クリスマス会)

2 販売(授産)

(a)	区役所販売(毎月 第1・3月曜日)	※5月から再開
(b)	なごみ(毎週木曜日)	休止中

[6] 実習・ボランティア等受入

1 介護体験実習等(大学生・介護・教職課程)

実習参加者	3名	昨年(0)
延べ実習日数	3日	(0)

2 利用体験実習

実習参加者	1名	昨年(2)
延べ実習日数	1日	(3)

[7] 職員関係

1 雇用職員

管理者・サービス管理責任者 4名
(相談支援専門員1名含む)

(生活介護)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	21名	6	15	4
調理員	1名		1	
医師	1名		1	
看護師	1名		1	

(共同生活援助)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	12名	1	11	5
世話人	5名		5	1

(短期入所)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	3名	1	2	3

2 実施職員研修

年間研修回数	11回	
延参加人数	14名	
(新人研修関係)	回	2名)
(人権研修関係)	2回	2名)
(支援研修関係)	2回	2名)
(実務研修関係)	1回	2名)
(運営研修関係)	1回	1名)
(地域福祉研修関係)	5回	5名)

[8] その他、年度を通して

コロナ禍を身近に被った一昨年とは異なり、法人の運営する事業に直接の影響はなかったものの、世相の中に大きく横たわる「自粛」ムードは色濃く、その再開あるいは形を変えながらの再出発の在り方を模索していた1年であったかと思えます。

その中で授産での貴重な販売の機会であった区役所販売(クッキー・パウンドケーキ)に関しては早々に5月から再開を果たしましたが、事業所として、また作業班として企画・準備を進めてきた各種行事・取組などについては、12月のクリスマス会の開催にとどまり、より身近に利用者の要求や体験を目的とした取組に関してはいまだ実現に至っていません。

そういった現場での苦慮を背景として、生活介護および共同生活援助に関しては安定した利用率を維持し、授産内容にも不況による影響は少なかったことから、比較的落ち着いた運営だったといえます。

一方では相談支援事業においては多様な利用者のニーズを受けとめ、特に他事業所等との連携がより進みました。同時にそういった相談を経て短期入所への利用者が増え、より地域性のある事業として作業所やグループホームとは違った発展の方向性を見せています。